

3.11

からの復興(45)

地域を超え、巡礼地でつながる

～東北お遍路（こころのみち）プロジェクト～

一般社団法人 東北お遍路プロジェクト
共同代表 新妻 香織

被災地の中でも千年先まで記憶に残したい場所を巡礼地とし慰霊・伝承するだけでなく、経済・文化的な復興の一助にしようと活動する団体にご寄稿いただいた。

(編集部)

柱が建ち、写真に収める人の姿を見る機会も増えた。

必ず福島に来なければならない仕掛けづくり

美しい景観と新鮮な魚介類が売りの相馬市の松川浦だったが、再び観光地として復権するには、どうしてもここに来なければならない動機づけが必要だ…。そんなことを考えあぐねていた時に、思いついたのが「お遍路」だった。福島だけでなく、東北の津波被災地全体で巡礼の道を作ればいいのだと。

中には「被災地を観光地にするのか」という批判もないことはなかった。しかし、日々被災地の中で暮らしている目線からいえば、「物見遊山でもいいからやって来てお金を落としてほしい」というのが正直な気持ちだ。被災地の人々が生業を維持するための観光誘客も立派な復興の手段になるはずだ。

そうして、仙台市の異業種交流会「はなもく73会」の会員やNPO法人「フー太郎の森基金」の会員らの賛同を得て、2011年9月に会を発足。間もなく、巡礼地の公募が始まった。知り合いのいなかった岩手県は、全被災自治体を巡って趣旨を説明して歩いた。お陰で大槌町の市民団

あれから4年

東日本大震災の発災から4年4ヵ月が過ぎた。恐らく津波だけだったなら、福島県はもっと早く復興したに違いない。まだまだ人が立ち入ることさえできない区域が、私の住む相馬市より南に広がっている。津波被災地の最前線にある我が家の周りの景色も、随分と様変わりした。里山が崩れ高台移転の団地ができ、津波浸水区域にあった実家はもう防災緑地になる土山の下だ。近所にある津神社には東北お遍路の標



津神社でお遍路標柱の除幕式（福島県相馬市）

体は全戸アンケートをとって、候補地を選定してくれた。一方で、児童・教職員84名が死亡・行方不明になった宮城県石巻の大川小学校の父兄からは、「候補地に入れないでほしい」との手紙も頂いた。そして2012年末には暫定候補地105ヵ所を選定することができ、翌年から候補地の検証作業を開始した。

3年かけて53ヵ所の巡礼地を発表

2015年2月に開催した東北お遍路フォーラムで、一般社団法人「東北お遍路プロジェクト」は東北お遍路の巡礼地53ヵ所を発表した。青森県八戸市の蕪嶋神社から福島県いわき市の勿来記憶の広場まで、東日本大震災の津波被災地に点々と津波の記憶をとどめるポイントが選ばれた。県別では青森1ヵ所、岩手9ヵ所、宮城24ヵ所、福島19ヵ所。2月6日の河北新報が「被災地巡礼まず53ヵ所」と社会面に9段抜きで掲載してくれたおかげで、各地から様々な反響が寄せられ、東北お遍路に対する被災地の期待が伝わってきた。

さて、この後、第2弾、第3弾の巡礼地が追加され、おそらく10年くらいで最終的な形が整



お遍路巡礼地最北の蕪嶋神社（青森県八戸市）

うのではないだろうか。現在、「東北お遍路巡礼地図」を製作中だが、地図ができれば、これを持って歩く人々の姿も見られるに違いない。

巡礼の道を多くの人々が歩くことになれば、被災地の私たちも津波の記憶を語り継ぐことになるだろう。やはり私たちにとって最大の防災は、津波の記憶を風化させないことなのだ。そのために私たちは今、巡礼地にまつわる物語を集め、紙芝居を作るなどして語り部を育て、あるいはツアーやイベントで人々を呼び込む作業に入っている。



紙芝居を使って体験を語る村上理事（福島県新地町龍昌寺）

一般社団法人 東北お遍路プロジェクト

東北お遍路（こころのみち）プロジェクトは、東日本大震災により被害を受けた福島県から青森県までの沿岸地域に慰霊・鎮魂のための巡礼地を選定し、千年先まで語り継ぎたい物語を見出して「こころのみちの物語」として発信し続けるプロジェクト。

2015年2月に53ヵ所の巡礼地を発表したが、今後も追加の巡礼地を公募し、候補地調査を実施。巡礼地創生委員会において、選考・選定を行っている。

HP : <http://tohoku-ohenro.jp/>